

一般質問 (所属会派は令和5年第1回定例会時点)

議員氏名 (会派名)	質問した事項 (登壇順)
おいかわ しゅういち 及川 修一	1 選挙公約 2 選挙のあり方 3 市政運営
ささき かずよし 佐々木一義 (創生会)	1 市長のまちづくりの方針 2 ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくり 3 ころとからだの健康
おおさか たかし 大坂 俊 (翔 成)	1 本市の財政運営における基金の運用と地方債の管理 2 自治体としての地球温暖化対策
いせ じゅん 伊勢 純 (日本共産党)	1 本市の今後の漁業振興 2 ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくり 3 本市の財政 4 市独自の奨学金制度
いとう あきひこ 伊藤 明彦 (新 志 会)	1 市長選挙における政治公約 2 ホテル建設への取り組み 3 新笹ノ田トンネルの整備促進及び国道343号の急カーブ解消 4 小中学校の旧校舎利活用
おおた かよこ 大田加代子 (碧 い 風)	1 新市長の子育てから大学等卒業までの「人材」支援 2 事務事業評価の公表
ふじくら たいじ 藤倉 泰治 (日本共産党)	1 「さあ、復興の先にかじを切れ！」の考えと市長の政治姿勢 2 地場産品の販路拡大とふるさと納税の今後の展開 3 市民生活応援と国保税引き下げ
はたけやま えみこ 畠山恵美子 (翔 成)	1 健康寿命の延伸に向けたフレイル対策 2 脱炭素化社会の実現とエネルギーシフト 3 林業と森林に係る政策と施策
おおつば りょうこ 大坪 涼子 (日本共産党)	1 子育て世帯や若い世代への応援 2 在宅介護の家族支援の拡充 3 高齢者にやさしい公共交通の取り組みと今後の方向
きむら あきら 木村 聡 (翔 成)	1 未来につなげる財政計画 2 地域内の産業振興

※スマートフォンやタブレットなどで見出しの下にあるQRコードを読み取るとYouTubeで視聴できます。

広域合併への考えは

本市としての承継が大事



質問 市長は、今市長選で広域連携について触れていたが、気仙の広域合併についてはどのように考えているか。

答弁 市長は、今市長選で広域連携については触れていたが、気仙の広域合併については、周辺の発展のために、周辺の地域との連携は重要だが、他の市や町との合併ではなく、歴史、自然、文化な

どを大切にしながら、「陸前高田市」として承継していくことが大事である。

質問 震災後12年の戸羽市政と、この間に絆が生まれた人との繋がりの評価は。

答弁 最も苦しい時期を乗り越えられた市民や復興に捧げた戸羽前市長、市職員、応援を頂いた全国の皆様には、

は、将来に関係する事柄や数値について、前提となる条件も変動することで、端的に示すのは難しい。

質問 戸羽前市長の掲げた国保税の減額、学校給食費や公営住宅共益費の無償化などの公約はどうするのか。

答弁 学校給食費の無償化は令和5年度の当初予算で措



本市役所庁舎



及川 修一

感謝の気持ちと尊敬の思いしかない。

市長選挙の公約は

質問 市長選での公約は大学誘致、4年間で雇用千人創出、農林水産業の生産額倍増などであったが、その根拠と可能性はどうか。

答弁 公約の根拠について

置かせていただいた。災害公営住宅の共益費無償化と高齢者の補聴器購入支援についても予算計上した。国保税の限定的引き下げについては、可能であれば補正予算で対応する。

クリーン選挙の啓発は

質問 選挙で拡散されたような誹謗中傷のないまちにするための、啓発すべきと思うがどうか。

答弁 うそ、デマの類は非常に怖いという思いから、私の選挙を手伝って頂いた方々に対し、相手方へのそうした攻撃を一切しないように再三注意をした。また、クリーンな選挙となるよう選挙管理委員会としても取り組む。

今後のまちづくり策は

市長選公約の実現を目指す



質問 市長選での公約実現に向けたロードマップは。

答弁 今後の4年間のうち順次固めていく。大学誘致は、実質的に誘致が決定することを指す。

質問 外部の人をキープ

質問 ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくりの継続はどうか。

答弁 今後も継続して取り組むとともに、協働のまちづくりを更に進めていく。

ノーマの継続は

質問 ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくりの継続はどうか。

答弁 今後も継続して取り組むとともに、協働のまちづくりを更に進めていく。

心と体の健康は

質問 市民の口腔の健康についてはどうか。

答弁 成人者以上の歯科健診は20%前後の受診率となっている。保健、医療及び歯科医療の連携を図り、健康づく



口腔の健康

りに取り組んでいきたい。

質問 带状疱疹への対策についてはどうか。

答弁 带状疱疹予防の基礎知識について普及啓発を図り、糖尿病などの生活及び重症予防の取り組みを引き続き推進していく。